

水源禪師法話集 103

(2018 年 7 月 25 日 カナダ合宿最終日)

2019 年 3 月 16 日

一乗禪の会



ミャンマーの沙弥たち

目次

水源禪師法話

24の因縁（前回からの続き7～10）	3
お釈迦さまが過去性で行った菩薩行	3
菩薩行は想像を絶する苦行、軽々しく出来るものではない	4
悪行の中で生きて行けば、来世に悪世へは自然の摂理	5
国が崩壊しつつあっても、黙っている日本の宗教界	8
24の因縁（11～24）	9



水源禪師 トルコ イスタンプールの港にて

水源禪師法話

24の因縁（前回からの続き7～10）

日は因縁、hetupaccayo という題目で。

7、aññamaññapaccayo 相互縁

お互いに、何かで関係のある事。

8、nissayapaccayo 依止縁

衣がちょっと触れた縁でも、袖振り合うも百生の縁に繋がると縁。それによってまたそういう、袖触れてどこかのお茶飲み会とか、ちょっとした挨拶とか、そういう縁でも、軽く通りすがりの人でも、ちょっとした事で、そういう縁が続きますという事。

9. upanissayapaccayo 親依止縁

もっと親しく、今度は声を掛けたり、会合とか、そういう事でもっと親しくなって行くという縁がありますと。

10、purejātapaccayo, 前世縁

過去に生まれて、何か縁があってこの世でまた会おうと。

お釈迦さまが過去性で行った菩薩行

ヤショダラは過去にも奥さんになり、続けて何回も奥さんになったみたいで。ちょうどお釈迦様がまた托鉢していたのですね、この世に生まれる最後のこの地上の行の菩薩行の時、それで王様だった。

その時に、一切を捨てるという事で王国を捨てて、それで子供と奥さんを連れて行ったわけ。長女と長男かな。長男と長女と歩いて連れて行って。そうしたら道を歩く人が、お前は何でも与えると言うけれども、その子供を私にくれという事で、「はい」とやったのです。

奥さんはそれでもついて行って、本当はとても、悲しみながら。一緒に森に入って、王妃であって王宮でもう超贅沢なのが、ひっそりとした町に降りて生きているのです。

そして、そう言う時に、奥さんもだんだんやせ細って病気になって、それでも一緒に

また托鉢に行くために森から出て、その、お城の町に行くのです。そして、そこで托鉢するのだけれども、とうとう奥さんは弱り果てて、一緒に歩けないから、じゃあお前、この城門の外で待ちなさいと。

そして、托鉢して帰ってきたら、食事を分けようと思ったら、奥さんはコロリと死んでいたのです。その側で、ただ黙々と食べてそのまま行っただけです。菩薩行って、という風な強烈な苦行なのです。だから、日本ではそういう話、全部外しますから、ああ菩薩行だと、すぐに出来ると思って。そんな感じでワイワイと漫画の生活のわけですよ。

菩薩行は想像を絶する苦行、軽々しく出来るものではない

さあ福島、これから復興だー、もう一瞬にして、福島を全部直して、ワッショイ、ワッショイと大声掛けたけれども、今聞こえないね、全然。

本当に何と言うのか。こう言う人たちは一体どう言うつもりなのかね。さあ、菩薩戒やったからと。菩薩戒ってこれだけの苦行するのですよ。本当にそんなに軽々しく言って、人を騙して、因果の恐ろしさを全く知らない事は、お釈迦様の教えの真逆をしています。

日本に居た時に「おっ」私も「そうか、菩薩、それが偉いのだ」と私も思ったけれども、どうもこの南伝をやってから、こう色んな話を聞けば、ジャータカ物語を読んでみても、これは凄い事で、菩薩行はそう簡単ではないと理解し始めました。

それは、皆が目指せば良いですよ。どれだけの苦行をして、お釈迦様が菩薩行やってと。そこの問題なわけです。あ、お釈迦様、菩薩、私もお釈迦様みたいに菩薩やってとか、あ、私はオリンピックに出て、誰かさんがスケートで金メダル取ったから、私もすぐ出来るってそんな事を言っているよ、皆。

それでも菩薩行に比べれば、まあ桁外れに小さい事で。だから狂っているとしか思えないね。この言い回しから、そういう風にして。お釈迦様のこの悟りによって、私たちが涅槃に行けるという道、真っ黒の、暗黒の世界、暗黒、無明、真っ黒。ただお釈迦様だけがそれを逆にして光を与えてくれているわけです。ここでまた、真っ黒にしようとするのだから。

アフガニスタンを訪ねて、あの仏教の大聖地のあれが、全部仏像の首を落として、写真見せたでしょ。本当、今、これに近い事を日本でやっていますよ。このまま行ったら、悲惨事ないわけないと思います。

【参加者】

豊臣秀吉の時代もやったでしょう？日本が。韓国の仏像の首を切った。

【水源師】

ああそうなのですよ、そういう話しないのですよ。

【参加者】

それは凄く悪い事ですよ？

悪行の中で生きて行けば、来世に悪世へは自然の摂理

【水源師】

そう、それはそう、だからそういう怨念があるかも分からないよ、これだけ日本の国民が、原爆でやられて、その後また3. 11で。もう、それ以上の莫大な被害を受けて、もう今、全日本が毒を撒き散らされて、この責任は一般国民が背負ってやっているけれども、宗教界が真っ先にそれを反対しなければいけないはずですよ。

この人たち本当にどこへ行くか分からないよ。あなた方日本国民は皆黙っていますよが被害者ですよ、はっきり言って、騙されて。一身にこうして仏教をやっているから救いがあるけれども。

このアフガニスタンの現状は滅法。だから、日本は滅法の直前だと。末法から滅法、その違いでもアフガニスタンのカブールから日本を見れば天国ですよ。

だから、法のある仏国に比べれば、そりゃあブータンとか、そういうミャンマーとか、そういう所は実はもう、天国。それ以上の天国だと思いますよ。

ところが経済的には、何だかんだと言っているけれども。だってもう90に近いおばあさんがもうさっそうと歩いて、肌色も赤ちゃんの色でピンピンしているのだもの。薬一つ飲まないで。

何が楽しみかと言えば、御経を聞くのが楽しみだと。それでお寺参りするのが何よりも楽しみだと。朝から晩まで、漫才でゲラゲラ笑って頭が狂うより、余程、そっちの方の心が宇宙的に進化して行くと思いますよ。

それで成れの果てがもう、今、大洪水だ、火山は爆発する、それから経済何だ、と。もう、尽きることなく災害、上はもう政治が大混乱、下の先生も大混乱、皆右往左往、ちっとも私たちからみれば貧乏みただけけれども、裏の畑で出来た食物、それを食べれば生きていくから、お金はいらないと言っていました。

只々、御経を読むのが楽しみだと。チベットの山奥でも今から、二十何年前に行けば遠くの方で、御経を読んでいるのだと思う。一緒に行った車のおばあちゃんが、何をしているかと思ったら、箱を開けて御経を読んでいるのです、一生懸命に。

今は、もう cellphone でチャチャチャ、音楽聞いてチャそれでお終、そういうチベットの山奥で。そうしたら、地上界、こういう、ぐちゃぐちゃの世界では、体も悪くなる、頭も

やられてしまう。

そして、70になるおじいちゃんが車で逆走して、人を殺したり、自分も死んだり、もう日常茶飯事なもの、交通事故はこの40度の高熱で働かせて、その首相が、国民一ヶ月休みなさいと。お金出しますと、埋蔵金がありますと言えばいいのに、埋蔵金は懐に入れる、福島の大災害の何兆円と言うお金もどこに行ったか分からない。

これはね、縁、恐ろしい縁、ただただ袖振り合うも五百生の縁ですよ。こういう恐ろしいし、滅法に近い末法の滅法のどん尻のどこ、ここで皆さんが、ここでこう瞑想しているから、こうして話を聞いているから前部消えるけれども、一億三千万、0.000001くらいしかないと思いますけど、只、あなた方は、こうして、もう私以上にしっかり瞑想しているから、そういう暗黒から付き離れて抜け出るけれども。これしないで、ちょっと考えてみて、夜空の星が大変化起こしているのも見ない、何も知らない。野球ゲームだ、何だ、若い子の踊りだ、もう大好きだと。60、70のおじいちゃんまでそうなっている、日本。

私の昔だったら、中学生が漫画読めば馬鹿にされるわけです。「あれ？頭おかしいの、じゃないか漫画読んで、あの中学生」と。恥ずかしくて、漫画読んでいるとも言えないし、私も全然見なかったけれども。

私の時代は中学生くらいになれば、文学の本を読まなければいけないのです。そうでなければ、これはイカレた男とか、イカレた人間ともう見られるから。まあ、そういう50、60のおじいちゃんが漫画見て、それも変な漫画。私たちの時は手塚治虫さんと言うよね。そういう風な立派な正義の味方鉄腕アトムとか、今では最高の漫画でもダメだと言うその当時、「漫画？なんだ、そんなへんちくりんな、ものを見て」と。今はへんちくりんで、げっぷが出るほどの想像するのでも、大人が読んでいます。それでブッダの話の漫画書いていますが、いやー、分からない世の中に成りました。

その袖振り合うも五百生の縁で、こういう悪行の縁の中で生きて、何とも猛毒の縁で生きて行けば次の世、当然もっと悪い所に落ちて行きますね。自然の摂理でそうなのですよ、水が上から流れ落ちるように。

生きている間に、これだけ悪い事を詰め込まれたら心が増々重くなって、もっと深いところまで落ちて行きます。それがね、ミケランジェロの天井の絵に描いてあるわけです。神がジーザスに神と手が触れ合う絵があるでしょう。人は皆、天女みたいな天界が描いてあるわけです。

ミケランジェロは、もう自分が半分餅みたいな形になって、やっとなんか引がかかっている感じ。それで重いと。自分は落ちるべき身であるみたいな、やっとなんか助けてもらっていると。そういう、バチカンの最も聖なる絵を描いている方でも、キリスト様の方でも、仏教はそれを明快に分かるはずが、今、日本の状態どう思います？特に精神界どう思う？この方達一体どうゆう風な生き方しているのか？もう未来も来世も前世もないという風な仏教を否定して何も無いと。体験して言っているのか、頭で考えて言っているのか、何も無いこの現代社会でコンピューターがどんどん出てくるわけですよ、無いは

ずのものが、無だったら出てこないです。

けれども、どんどん飛行機は出る、恐ろしい武器は出てくる。それが叡智だって、叡智の塊で出てきますと。叡智の塊で日本の福島原発で、日本国民殺されそうにして、これが叡智ですか？ちょうどアフガニスタンのイスラムの大先生が、この地にはイスラムが来てとっても幸運になる神が来たのだと。あなた、タリバンがあなた達を殺してこの国が滅茶苦茶になって、外国から来て、あなた達これはラッキーなのですかと。

これが、神からもらう、ラッキーって。そして、あなた方はご先祖様の仏像を全部壊して、先祖を崇めない。これは神の最も罰せられる事と、あなたの経典に書いてあるでしょうと。モスクにも入れないはずですよ。絶対に入れない。「これは・・・」という事を神様が言っているのに。

特にカインとアベルの兄弟殺しは最も悪いと言う。あなた方、今やっているでしょう。これが、どうして神が来てどういう幸運を与えましたかと。黙っていた。この人は黙って聞いてくれました。



ミャンマー 黄金の仏像

国が崩壊しつつあっても、黙っている日本の宗教界

いや、もっと偉い先生は、ドバイにいます。ええー、五千万の人口の人がドバイの小さい国の先生がもっと偉いのですと。これでもまだ正直なのですよ。日本は何も言わないですよ。国がもう原爆で滅茶苦茶にやられて、広島長崎なんて何ともないくらい小さい破壊だけでも、凄い放射能の灰を撒き散らしているのに、黙っている。

ただ日本の場合は、平安時代、奈良時代から仏教を続けて来ているから、まだ何とか防波堤でやっているけれども、外の凄い猛毒の津波をがーっと抑えているけれども。これがなければ、もう、一瞬で終わりですね。

だから、変な宗教が次から次へと起こって、次から次へと惑わし合って。もう、正しく守る方々が、ジャーナの入り方も知らない、ジャーナも出さない、それがまだ序の口で。その先一杯教科があるわけなのですよ。

本当に死んで良い所に行くのだろうか？先生が行けないのに、どうして拝んだら一般の衆生が行けるのでしょね？先生が道分らないのに、はい、それで行けますか？

行った事が無い所。実際に死の世界を観るとか、来世の世界を観るとか。それだったら話は別ですが、地獄界も観るとか。それはね、四梵天住口の瞑想をやればちゃんと観えます。それで死んだ人を探し出せる、という行法がちゃんとあるのですよ。

実際に観られるし、正法が。これが、私がただ言えば、ああ頭おかしい、狂っていると言う、それで一瞬にして片づけてしまうけれども。

そういう事を言う人たちの恐ろしさと言うのを、本当に気が狂っているとは思えない。ミャンマーで私が、ちょっと地獄界の事を言うでしょ、皆震え上がって止めて頂戴その話辞めて頂戴、もう分かるわけですよ。

日本は何ともないのかな、ちゃんちゃらおかしい、そんなもの無いと。凄いアフガニスタンのその滅法の社会と日本を比べてその違い。その日本が今、末法どころかもう地獄界に観えるところでも、まだ滅法の前、地獄に入ったら、どれだけ凄いところか。

という事を、僧は観なければいけないとおもいます。人は本当にそういう所に行かなければいけないけれども。ただ空念仏で、西方の方に拝むとか、観音様を拝めば絶対そこへ、心が真っ黒けだから、ミケランジェロでさえあれだけの偉大な絵を描いた聖人でも、自分が分かるから天界にも行けるかどうか。落ちる所で、ちょっと救われていると。

神を祈れば全部、天国に行くと言う、そういう宗教でもそうなのです。だから一般の方を惑わさないで下さいと、私は言っている。一般の衆生の方が心から、西方に心を込めて拝む方法をやって下さいと。言葉では良いけれども、本当にどうすれば心からの念仏の、見本を示さなければいけないでしょう。空念仏。

本に書いてあるからそれで行けるはず。行けないです。だって親鸞聖人が一億なんばいればたった2、3人しか行けないという事を言われているのに。法然上人が浄土三

部経で、私が観た、行法で阿弥陀の国を観て、絶対確信してやったのだけれども。

それは、もうその前から、金綱山一体で、四世紀に一日一万名号と言って阿弥陀を拝むわけですよ。それで観るか、観ないかという行法があつてその後でしょう、法然上人が出てたのはその後です。

アフガニスタンに行けば北伝だから皆、阿弥陀の赤い衣を着ています。そう言う事も言わない。突然出てきたみたいな、そう言う方だけど、佛説と書いてある三部経で。それがどこから来たか、カブール、アフガニスタンから日本にやって来たわけですよ。中国から伝わって。

まあ、そう言う事で。こういう法を良縁と言うわけですね。良い縁。こう言う風にして。禪那縁、果報縁まあ後でやってくるけれども。

結局、前の世で会った人がこの世でも会おうと。ヤショダラ(ゴータマ王子の妃)様とか。だから皆さんとこうして会って深い仏法を勉強しているのは、やっぱり過去の昔に皆さんと何か因縁かで会っているわけね。

24の因縁(11~24)

11、pacchājātapaccayo 後生縁

この次の世でも会う縁と、だから一生懸命弥勒様を拝むわけですよ、弥勒様に会えれば、涅槃に行けると。だから、Laughing Buddha と、世界中で有名でしょ。一生懸命、弥勒菩薩様の事を拝むのですよ。

この方はアジタ比丘と言う方で、ただひとりお釈迦様から、あなたは未来仏になると。大乘では千二百人の比丘、比丘尼がひとりひとり全部、お前はどこ、どこの国で生まれ、どこ、どこで正道して仏になると言われているのだけれども。

南伝の方では、ひとりだけと。こう言われている。それでこの方が、どうも中国で天界に行く前に、もう一回お坊さんになったみたいな事で、このお坊さんは超有名な人で、朝市場に行って、そして皆からお布施頂くわけです。

貰って行って袋に詰めて、そして、今度、それを必要な人に全部分け与えるのです。そしてその後、お寺に帰って、次の日、そういう風にして、お寺も何も持たないで、一生そういう風に暮らした方です。

その方の御経を読めば、涙が出るくらい尊い菩薩行をしていました。だから菩薩戒やったから菩薩になるのだとか、オリンピック選手を目指すから、私はゴールドメダル取るのだと。そんな事、本当に言えば、普通は頭狂っている、のじゃない？

仏教の事はもっと凄いのですよ。それ真剣にこそやればもう凄い事です。真剣とは言い難く、ただ言うだけです。

さあ、福島大復興だ、すぐやると。未だにだめ。本当に頭が狂っている。本当にお釈迦様が貪瞋痴、痴、白痴の痴。毎日新聞の大宅壮一さんが一億総白痴と言っていま

した。その当時総白痴、今はどうなっているのだろうね。プラス超総白痴になっている。超超総白痴になって、もう、手の付ようが、無い社会みたいです。

という風に、外国から今、見れば、カナダから見てこれ、お隣さん、何だかんだ言って、ここ見て、悠然として暮らしているでしょう。悠然として静かにこの湖の側で。まあ内容は分からないけれども、見た目では。

大きな大地に悠然と水のほとりで、小鳥は家の中に巣を作って雛を育て、雛が今返ったってちちいっと喜びの声を上げ、湖の前では、カナディアンギースがゆったりと泳いで食事しながら、家の前ですよ、広大な湖があつて。という風な生き方、この違い。

それで、ここでこうして静かに皆と一緒にこう瞑想して、これは17番目にくるね、禪那縁。こうして禅堂でこうして凄く良い縁なわけですね。

12、āsevanapaccayo 重複縁

後で会う、何回も何回もそう言う繰り返し。

13、kammappaccayo 業縁

良い事をすれば良い縁が当たると。因念応果で。悪い事をすれば悪い因果がやって業が悪の果物が出てくると。そう言う事ですね。

14、vipākapaccayo 果報縁(異熟縁)

因応果報の果報縁(異熟縁)。ちょうど突然、あら？何で私がこんな大金持ちになったのかとか、突然私は大不幸になって、雨が降って全財産が流されるとか。これもそういう事になるわけです。

縁が熟して業が熟してそういう事になるのです。雨が来て、今にも死にそうな時、お父さん水が上がってくるから逃げまじょうと、危ない危ないと。いやあ、息子よ。ちょっとそこ土間が濡れているから、そこ汚くしたらダメだよと言ってまだこう拭いているのです。

そして次に、お父さん本当に、大変だから命あつての物種だよと言っても、大丈夫と言って、水が段々上がって来たら、まあ靴で土間に上がって良いよと、そのうちテレビを上げよ。テレビ、はい、テレビを上げていたら、それで出ようとしたらもう水がザーッと来て胸まで来て、それで全部みずのあわに成りました。

良い息子さんが二回も訪ねて来て、朝6時か何か出発してやっど、お父さんの家に着いたのが、直接行けないから、大きく迂回して10時ごろ着いたのだった。

やっどと事で着いたのに、「いやあ、家は大丈夫みたいだな」と。そうして。それで二

回目行って、もっと水が上がって来て、今度、いや土間に上がっても良いから、でもちよっとこのテレビを上げてから逃げようと。だから頭が、大宅壮一さんが一億総白痴とその当時から、もうどこまで落ちきってしまったか今の時代。

この暑さ40何度で頭がぐらぐらしているのに、何とか注意報出したからそれでお終いでなく、老人の方には失礼だけれども、ちょっと家にいて、また若い人は老人を助ける様にという号令出さなければいけないわけですよ。

ちゃんと見回って助けなければいけないですよ。もしそういう事をしない事には、罰金を払ったり、税金を高くしますと。

人の世話にばかりなって、それでは濟まないという風にしないと。大会社はこの時にどんどん埋蔵金を出して助けなければ、人の世話にばかりなって、さも私は人を助けているような事ばかり言うのはもう、辞めてくださいと。

あなた方は、日本の労働者から血をすすって生きて大きくなったのでしょうか？と、はっきり言わなければいけないのに、誰も言わない。

特に精神界の人はもう先頭に立って、命をはたいてやらなければいけないのに。まあ命を捨てると言う事はダメだけれども。そう言う風に鉄砲を撃たれようが何しようが、特に僧侶たちはやらなければいけないのに、何もしないようです。ベトナム戦争でも、間違った行動だったけれども、お坊さんが自分で火をつけて反対したわけですよ、政府に。

アメリカにあまりにもへこへこして、国民がもう死ぬ、明日も無いどん底で暮らしてしる。そう言う事で抗議して。まあ、自殺という事に私は反対、いくらそれでもね。仕方ないから自分で火をつけて燃やしたと。全世界にそう言う事で。

でも仏法としては、それはいけないのだけれども、そこまでやらなくても声を上げてデモをしてやるべきだったのですよ。ミャンマーでも、前の軍事政権に対してお坊さんが全部、私たちは食事をとらないと。鉢を下にしてデモをしたわけです。それで政府が逃げて新しい都市を作ったわけです。お坊さんを殺すわけにいかないから。

という風に、業縁、良い業を作れば、良い結果が出るけれども、これだけ悪い業を作っている日本のお坊さんたちの事が心配なのです。何も言わないで、黙っているのが良いと。

この人は、どこに落ちるか分からないですよ。私信用できない、出来ないから全部逃る、そうではないですよ。お坊さんとしては、最低、四梵天住を觀て、どういう世界があるか最低觀なければいけません。

また、それはサマタで、前世とか来世觀る行までいかないけれども、せめてそこまですなければ、今あなた方もこう阿頼耶識がチラチラチ出てくるでしょ。たったこれだけもしない、葬式が忙しくて出来ない。

葬式が忙しければ、お坊さんの組合作って、はい今日は何番から何番、分けてやれば後は修行出来るでしょう。全部、言い訳のように思えます。

まあ、こんな事、言えないけれどもね。オブラートに包んで発表しなければ。でも、あなた達にちゃんと聞いてもらわなければ、せっかくここまで来たのだから、私がオブラートにやったら皆さん寝ます。

コックン、コックン本当の事ではないから。もう疲れ切っているから。こう言えば目がぱっちり覚めて、あそうそうと。まあそう言う事で、業縁ね、業縁が従じ果報縁、この事を私は心配しているのですよ。



アフガニスタン 頭部を削り取られたレリーフ

15、ahārapaccayo 食縁

日本食とかフランス料理とかそういう縁もあるわけ。納豆を食べる縁とか、豆腐を食べるとか。世界中にないですよ、そういう風な豆腐とか納豆とか、南米に行けば全く違う料理方法で、鳥の料理でも何でも大味なのです。

そういう風な、良いものを食べる縁。日本は日本食が超有名で良い物作るでしょ。中国料理とかフランス料理とか超有名ではないですか。そういう縁もあると。

また、一生お腹が空いて、それから、もう一生お腹一杯食べたことが無いという縁もあるわけです。一生美味しいものを食べたことが無いという縁もあります。

それで私の家内に、焼肉食べさせたら、世の中にこんな美味しい食べ物があるのかと初めて分かったのです。

という縁の事ね。まあそういう食縁。

16、indriyapaccayo 根縁

同じ両親から生まれ出るとか、親族、いつでも同じ親族で生まれるとか、それから悪行を尽くす家庭に生まれたから、生まれながら真つ暗影の世で生まれるとか、または良い事ばかりする良い家庭に生まれるとか。

デバダッタみたいに、絶対に、お釈迦様に敵対するという根縁、そういう悪い因縁でも仏になる事にくっついたお陰で、最後には涅槃への道、道縁を得るわけです。

彼の場合は、最悪から始まるのですよ。私たちはそれを飛び越して、お釈迦様の道を進めるわけです。その違いたるや、凄いものじゃないですか？

それも金剛波羅蜜多般若心経の須菩提様。お釈迦様が涅槃に入る前に最後に教えを受けたのですよ。今、私たちはこうして一緒にお釈迦様から教えてもらったサティパターナーの手法の中のそういう禪那縁をもらい、またそこからみた道縁、韓国の偉大な印幻先生、チベットの大先生、南伝の偉い先生方、そういう人から聞いて、先代の薬師寺のお坊さんとも討論しながら、それから安部公房さんと言う方とも討論しながらカナダで、あの小説家おられたじゃない、公房さん？わざわざ日本から来て、私と長々と話して頂きました。

で、また日本で最初に仏教経典を英語で書かれた角田先生、という風に、凄い良縁が出てくるわけです。それも前世とか色んなあれでね、道を求め求めているから、ダライラマ法王にも三回も会って、懇切に3日にわたり講義を受けるわけです。

こう藤田先生が、いう講義はなかなか難しくてアメリカでも大変な事なのですと、浄土真宗の方が言われていたけれども。

それも、若い時に受けてそれから色んな先生方に助けられているわけです。特に通度寺と言え、お釈迦様から代を受けたその法を持っているお寺で、だから中台禪寺□の台湾では法が、そこで釜山で止まっているわけです。日本には行かなかったわけ

です。ちゃんと書いてある、そこに。見たでしょう。日本ではないのよ。それを。

【参加者】

京都合宿の時龍谷大学で展覧会があって、それで比較掲げて、地図と言うか。

【水源師】

そう、という風になっているわけです。そこのオーラ(月下)・スニムと言え、舍利一杯を出した最高峰の法師様が、同じ部屋で王子様みたいに私を泊めて頂きました。それで、その後の代の方が、この掛け軸をくれたわけです。私は全然分からないけれども、そう言う人たちは観えるわけです。この人は道を歩む人だと、道を。一般のこういう衆生の中でもせっせ、せっせと。

ここで、お寺開く時も、お坊さんあんまり嫌いで、もう、嫌になったけれども私に、頭を下げて、あなたは必ずや将来ここにお寺を作ると言う、予言を受けました。

【参加者】

この方が？

【水源師】

いや違う、違う他の、今、バンクーバーに居るけれども。と予言するわけです。まあ、夢か何か観るのでしょうか。こういう方達はもう長い事座っているから、本当に真剣に。

まあ、そういう事で。仏法では、道を正しく歩む者を、デバダッタみたいに邪魔したりそういう事をすれば、仏罰と言う事があると言う事を日本ではあまり知られてないみたいだけれども、ミャンマーでは凄いですよ。最悪の状態、仏罰と言うのは。

だから私も必死になって、大変な事になるから辞めなさいと言うのですが、全然ピンとこないわけです。何回も言っても、止めようがないし、もう困ってしまっているわけです。

その人が増々悪い所へ行くのを、必死になって止めようとしても、火の鉄の窯に飛び込もうと言うのだから仕方ない。本当にいくら止めさせても、もう。一人で行かないのですよ、皆連れていくわけです、そっちに。

皆で地獄の鉄の窯に落ちれば怖くないと。赤信号、そういう事をやっているのです。自分ひとりでは行きたくないからね。連れて行くのです。

だから、皆で一緒に修行をするから絶対にそう言うところには行かないと、そう思わざるを得ない、という風に教えられているから。

未だに、オウム真理教のそういう事は間違ってたって、本当に一旦、狂えば、もうなかなか出られない、そういう集団から。だから、お釈迦様は、修行を収めれば、森の中でひとり、山の中で、ひとりで暮らしなさいと。私もそう願って一切弟子はとる気がなかつ

たのです。

でも、まあ短刀を持って来て弟子にしてくれと、そうなのですよ。命落とされたら困るし。その縁でこうして皆さんと出会って一生懸命やる事になったけれども。だから悪縁が良縁いい縁に変わると。そう言う風な感じです。

17、jhānapaccayo 禪那縁

お釈迦様が、なぜ托鉢して乞食をやったかと言えば、食事を貰うことによってその人達が沢山の福を受けるのです。良い事があるわけです。本当にそうなのですよ。

私の同期のスマナ比丘が、私を随分助けてくれて、こうだよ、ああだよと言って、隠れてサポートしてくれた人がね、山の上で出会ったわけです。私はこれから来世は、弥勒菩薩のところに行って、兜率天に生まれるのだと言って、おお、お前もそうか、私もそうなのだよと言ったわけです。

それから話が合って、なんで、お前がそういう風に修行今こうしているのと。いや実は、私は前に地獄に落ちて、女の人3人殺して、焼き殺して地獄に入って、凄く苦勞して今、出てきたのだと。今、過去1回、2回、3回比丘をやっていると。

何で出てきたの？と。カシャパブツダ様にお布施したのですよと。ダーナしたそのお陰で出てこれたと。

という風に、仏に会おうと言う事は、それこそ宇宙の因果応報をひっくり返す最高の名誉だからね。スリランカでも仏歯菌のお寺の五千人の人に最高の食べ物を出すと言うのは、普通ではなく宝くじ当たる以上の事で、365日しかないわけですよ。

特に満月の日は12回しかない13回か。私もパオで満月の日にお布施したかったけれども、ダーナしたかったけれども、全部回ってひとつも取れなかった。

それに近い日を取るのが精一杯。それで全食事皆さんにお布施して、私は比丘だからお布施の名前は出来ないから、家族がしたという事になっています。

家族に大変な幸運が来るから、それで私のお母さんも私が七年出て歩いても病気一つしないし、もう、家に来ないでと言われないで、ああ帰ってきたねって開けてくれて。普通、七年経ったら、もう死んだこの亭主何で帰って来たのと。やっぱりお布施した甲斐があるのだね。普通そうじゃない。「どこをほっつき歩いて！」って。

ある旦那さんが、バス停で奥さんに迎えに来てもらっているわけ、どっかに行ってきたか、まあ、そして、「この馬鹿亭主！」みたいな顔して、ドアを開けて、入るにも入れないところに車のドアを止めて、ジーっとして、旦那さんがあのうちちょっと、もうちょっと前へ出てと言うわけよ。そうしたら、「この馬鹿亭主やろう！」みたいな顔をして、グァーっとして、本当に憎たらしい、ちょっと開けたら旦那さん横に座れないのよ。後ろにこっそりと。

【参加者】

そんな人いるのですか。

【水源師】

いや本当にそうですよ。これは本当の話ですよ。私見ました。

【参加者】

日本ですか？

【水源師】

はい。私がそうしてごらん、日本で焼き裂き。憎たらしいと。毒を盛られて苦しむのを見ながら殺されたかもしれない。本当です、もうプンプンして。

旦那さんは、にこにこして隠れて、奥さんはこの憎たらしい、どこで遊んで来たかと言う風な、海外旅行に行ったかどうか知らないけれども、ジーっとそんな顔をしていたよ。

だから、私なんか七年放浪の旅をして、ポイと帰って来ても、まだ家があったなんて！ やっぱり、お布施した甲斐があるのだね。

という風に家族は誰も病気しない。たったそのお釈迦様ではなくても。そして全比丘、サヤレー、比丘尼、北伝、南伝全て食事させて頂きました。

【参加者】

何人いらっしゃるのですか？

【水源師】

千六百人。

【参加者】

はあ一千六百人、凄い。

【水源師】

それにクティひとつダーナして。だから布施第一と言うのは本当ですよ。

【参加者】

スリーパーダですか？

【水源師】

いやパオで。だからその後もうどこでも、いい縁を貰って大事にされているわけです、

何か知らないけれども。また良い所に出会って。それが、泥棒の教団に布施してもこれは悪行を深くするから、もっと悪くなったかも知れない。

日本の人でもパオの修行道場に布施するという、てんで全く関係ない、良いか悪いがあんまり評判が無い所に布施してしまって、そのお金、可哀想に。この違いたるや。

でも、そこでもやっぱり、お釈迦様の縁でこうして、禪那縁というのが出来ている。良い事しているから。かわそうだから、純真な心だろうから。これがもっと欲心と言うか、欲の塊となれば、あなた方、ここに来ないですよ。来たくても来ない。

じゃなくても、そういう悪い、良い人を騙して、そういう風に布施を集めて悪い所に送った人達は、チラっとその人たちが告白した場合には、もう大変な状態。

だから、こういう話を聞いて、布施という事の大事さ分かりました？それが良いとこですよ。それがまた見つからないのです。また見つからない、なかなか。そう簡単に宝くじは当たらないのです。まあ、そういう事で禪那縁。

18、maggapaccayo 道縁

結局、こういう風に仏法を求めて、道を求めて、一緒に。そういうね。私も道を求めて、求めて、その最終的に善財童子の文殊菩薩の五台山まで、道縁でそこまで入れてもらって、皆さんに増々そういう凄い道縁の縁を作ろうと思って、五台山、五台山って有名よ、超有名、という縁を今作っているわけです。

つまり、どんな宗教でも、大切な心は良い心を持つこと、ただこれひとつだけ。だから後はいくら正しい眼を持つとか、正しい眼を持つには、良い心がなければだめですよ。

悪魔の眼で、どうして正しい眼が持てますか。だから、印幻先生を何回も出すけれども、正直に、真面目に、人のために尽くしなさい、これは良い心のそのもの。

人のために尽くせと言うのだから、人からお金を盗んだり、騙すわけいかないでしょ。いちいち項目あげなくても。

それを後は、何だかんだと、靴の紐の結び方が悪いからこれはだめだとか、心が曲がっているとかそんな事ばかり言っています。

髪がちょっと乱れているから、これは品のないちょっと不清潔だとか、そんな事より心がしっかり良ければそれで良いわけですよ。ただ色々事情があってそうなっているのだから。

ところが、皆さんは、足を上げた、下ろした、重箱の隅。どんな靴履いて、どんな格好して、もう細かく、そんな事ばかり見ているようです。

自分の心を観なさいと。人よりも。ところが観る目が無い。外ばかり見て。自分は全く観えないわけ。

という禪那縁と道縁とかそういう事をしないから、観る存在、心が在るという事も分か

らないし。特に動物とか虐殺してみたり、罪のないネコちゃん殺してみたりとか。酷い話。

人間を殺しても勿論いけないけれども、いくら何でも蛇でも何でも踏みにじって、子供でもあるまいし、それが悪い悪魔だから殺すとか。

これは毒蛇だ、殺さなきゃとか、でも、なんかどうも納得いかないのは、イノシシが町に来たと、それでボーンと殺して、もっと良い方法が無いのかなとか。クマが出て来たと、バンバンと殺して、ちょっと酷い。あれを麻醉銃でポンと撃って帰せば良いのに。何で狩人呼んで、殺せと？

まあ、それは小さい事だけれども、つい最近看護師さんが何人殺したか分からないけれども、もう面倒くさいからポンポンとやったと。だからもう大宅壮一さんが一億総白痴とか、一億総悪魔に向かっているわけです。

一億三千万だから三千万は悪魔ではないのだろうけれども。悪い言葉で言えばそうなるわけですね。だからミャンマーで、私がちょっと説法したらもう震え上がるもの、私はこんな悪い事を言わないよ、もっと、しっかり自分を観て真面目にしなければ、本当に地獄ありますよと言っただけで、ファーッと震え上がって。

お坊さんは真面目に人のために尽くさなければあんまり良い事ないよと、言ったらもう震え上がるわけですよ。修行しているからです。

修行をしていないそう言う外国のお坊さんは、その場限りの修行でまた帰れば忘れるような人ばかりだから、あまりピンとこないみたいだけれども。それでも白人のお坊さんがよく私のところに相談しに来るわけです。何故か知らないけれども。

インタビュー受けたいと。私は先生ではないし、と言って、体験談を少し話すだけです。それでどういう風に修行すれば良いとか聞きに来るのだけれども。来て、まあ、そういう事で、出来る限りは教えてあげたけれども。

その中でも、そういう聖なる道場でも、色んな人が入ってくる。デバダッタがお釈迦様の側で、サンガを分裂させるみたいな、そういう人間もやってくる、どこでも。

じゃあ、仕方ない、この悪世の世の中で良い事をしようとするから、全部100%万々歳という事はない。あるというのが狂っている、そういう風になっていないのだから、この世の中は。

お釈迦様でさえ、そういう方が出て来るでしょう、お釈迦様を殺そうとして。逆に自分がもう、地獄に入ったのではなく、転げ落ちて重病して、そしてお釈迦様がデバダッタを看病してあげたわけです。

大乘では地獄に落ちたと言っています。お釈迦様はそれだけ凄い方で菩薩行からブッダになって、それで憎い憎いと思った、殺してやろうと思ったデバダッタね、あの人はいとこ兄弟なのですね、王様の弟の子供なわけです。

それでマンガラという弟の奥さんがキングの、どうしても自分の子供を王様にしたかったわけです。子供が何しても生まれなくて。お釈迦様のお父さんも何しても出来ない、

子供が。奥さんをふたりもらって、マヤ妃とマハーパジャーパティ妃という方。本当はこの妹の方から生まれるはずなのに、満月の日にちょうど予定が、それぞれ寝室に入る決まりがあるみたいだけれども、どうしてもお姉さんに先に産んで欲しいから妹は、王様が来た時に私はちょっと女性の体だから今日は無理ですと。そうではないのに、お姉さんに寝てもらった、一緒に寝室で。

そうしたら、その日に夢を見てね。白い象が月から降りてきて、蓮の花がお腹の中に入る、という風なそういう話。

インドのサンスクリット語の経典を集めて作ったそういうお話の中では、そういう話も伝わらない。

簡単に妃マヤから生まれたと。それでお終。だから、壮絶な話しがいっぱいあるのです。それで、インドのそういう話では、デバダッタがお釈迦様を殺そうとして、大きな岩を山から落とす時に、その岩に当たって瀕死の重傷に成りました。お釈迦様は恨む事もなく、優しく看病したのです。其れによって、デバダッタが初めて無量の生死をくりかえして、慈悲に出会ったのです。死の直前にお釈迦様に、ブッダンサラナンガッチャーミと。心からあなたに帰依しますと。あなたの加護をこれから永遠に頂きたいと。

ダンマンサラナンガッチャーミと、その法ね、そういう正しい教えに帰依して永遠にその道を進みたいと。

そして、最後にサンガンサラナンガッチャーミと、そして、そういう世のため人のため、そういうサンガの中で生きて行きたいと。

お釈迦様が作った、そういうサンガを大事にしてと。そこで死んだのですよ。そこで息を引き取ったわけです。それを大乘の私達が知っているのは、地獄に入る時に私はあなたを尊敬し永遠に帰依しますと。

それはそうだけれども、その壮大なストーリーが抜けているわけです。それだけ凄いという話。これは南伝とかインドの方は知っている、そういうブラマンでもね。ブラミンという、そういう今ヨガの聖者たちは皆、こういう話をしています。

日本の仏教界の人、本当にこの話、ここまでしているのかな、聞いた事ないし、読んだことない。だから今こうして道縁が出来ている。道縁。道を進むべき、本当の道はこうなのだと。今までぼかしで、森の木陰で見えるか見えないかが、あっここだ。という事が大体感じてきましたか？これを道縁と言う。

19、sampayuttapaccayo 相應縁

お互いに仲良く、モッガッラーナ大目連とシャリープトラはいつでもふたりで相應縁で仲良く、また夫婦も仲良くとか、友達も仲良くとか相應縁ね。または宿敵でお互いに殺し合いの相應縁とか。いい方に行くか悪い方に行くか。だからジャータカ物語でも、目連尊者とシャリープトラ尊者がいつもヒマラヤの木の下でピークパーチクして仲良くし

ていたと言うお釈迦様の話を言った事があるけれども。ひとりのこの鳥は、一匹はヒマラヤの山からもう一匹は下の森から来て、いつも仲良く話して、それもいい方の相應縁。宿敵の相應縁であるアルカポネのそう言う敵対、となればまた想像を絶する相應縁になってしまうし。

20、vippayuttapaccayo 不相應縁

いくら寄り添って仲良くしようとしても、縁が上手く行かずに割れてしまうと。いくら良い人達でも、合わない。私の場合はもう結婚なんて一生出来る、わけないからと、私の家内に、あなたと私は絶対に分かれる縁になるからと。それ分かるのと。それでも結婚したければするよと。そうしたら未だに続いています。

不相應縁ではなかったわけです。私の眼から絶対に、私は不相應縁で絶対に寄り添う事が考えられないと。そう引導を渡したけれども、全く逆に相應縁になっているわけ逆に。こうして。

だから縁と言うのは、そんな縁だ、こんな縁だと分からない。良いと思ったのが割れるし、最初からダメだと思ったのがここまで続いて来て。七年間寅さんみたいに風来坊やれば、ちゃんと、「はい。おいで」と入れてくれる。そりゃ、バックハッカーであっち行ったりこっち行ったり。まあそんな感じで。

21、atthipaccayo 有縁

あんたとは縁があったのだね～ってまた会って。また会いたくない宿敵でも、また有縁でいやーまた出会ったとか。

22、natthipaccayo 無有縁

無縁仏とか、縁が無くなってもう荒れ果てて。私が修行した、護摩焚きやった道場の奥にはそういう無縁仏の墓があるみたいでした。

だから、それが倒れても直す事が出来ないと。和尚様が言っていたけれども、そう。まあ時期が来れば有縁も無縁になると。また無縁がまた有縁に、前世でまた次かって今は無縁仏になっていると。

それから、親しい友人が音通無く無縁になってしまったと。自分の娘息子から、どこに行っているのか分からなく無縁になってしまったと。お父さんお母さんもどこに行ったか分からないとか。そういう話よく聞くと。そういう無縁と言う縁もあるわけです。

23、vigatapaccayo 離去縁

突然シリアとかリビアとか、アフガニスタン、イラクで戦争が勃発して遠くに去ってもうどこに行くか分からない、親族もいない。そういう離縁、自分からではなく否応なしにそうになってしまう。難民になってどこどうなったとか。

そういう縁もあるわけ。自分から去る縁もあるけれども、そういう音信不通で、最悪の状態があるわけです。

24、avigatapaccayoti 不離去縁

お釈迦様に徹底的に帰依して、こうしてどこまでも来れば私の過去世を調べればやっぱり縁が続いて、こうして法を皆様と一緒に分かち合うと言う素晴らしい仏縁。特に仏縁は本当に皆さん絶対的にこうしがみついても作るように、と言う事を願っています。これほどのいい縁は無いです。ただしゴードアマカと言うお釈迦様を崇めない仏縁は作らないで下さいと。まあそういう事で。

またあたりますけれども、ここを結局観自在菩薩行深、行深サンカーラを深く観てそういう事を観たと。

苦集滅道という事をお釈迦様が言われた事も説明したでしょ。その中夜の時に、どうしてそれを破壊して行けば良いかという事を、こういう風に苦集滅道。そして無明が尽きる、また至無老死 亦無老死尽と言うのはこの jati 最後の所ですね。

後、それを明快に尽きる事でもない。そういう事を無智、智でもない。コンピューターみたいに。また所得でもない。

一切を乗り越える、結局、さっき観音様の言った虚空に陽が上がるという現象。実際にそう言う事が起こるのですけれども。

それよりも、お釈迦様がここから悟った時に、病老死を超える生死を超えと言う事を明快に観られて、その間、そう言う事がなぜ起こったかという事は24因縁で、こうまた説明して、そして五百阿羅漢という、それぞれの方がそれぞれの方法でアラハトになって、それをお釈迦様は全部知っているわけですね。

それで法華経で有名な家宅、家が燃えている話あるでしょう。それは、日本では法華経は誰かが、天才が作られたのではないかという説があったわけです。

ところが、お釈迦様がある村を通して、その大金持ちの家が火事にあい、それでその奥さんが火事の家から飛び出て来て、その時、長者とお釈迦様がお話していた時でした。

それで、奥さんが、火事が出た、私の息子が今火の中にいて死にそうだと言って。そしてその時に、お釈迦様がスーッと観て、家の裏の窓に行って。窓もちょうど丸太の格子になっている。だから、子供が出られないわけ。

その子供は火事と言う事があるけれども、おもちゃで一心に遊んでいるのです。それでお釈迦様が長者に、この窓の丸太の格子を壊せと。それを一生懸命大人がやっ

て壊して、壁は壊せないから。そしてお釈迦様がにっこり笑って、「坊やもっと良いものがあげるからおいで」と。

そうしたら、まあ3つか4つの子供かな、ちょこちょこことになっこり笑って、そうしたらお釈迦様がずっと引き出してという、現実のそういうインドからの話があるわけです。

だから二千年前に天才が創作したという事は、非常に綺麗にもう一回書き直したから、そう思ったけれども実際の話であるわけです。

五百阿羅漢というのは何回もジャータカ物語で言った様に、お釈迦様はある時空の昔に、先生で教えていました。バラモンの先生でね。弟子五百人とシャリープトラも五百人弟子とか、そういう風に、五百五百で。五百阿羅漢という事が、来世は全てその弟子たちがアラハトになったという事になるわけですね。

という前世の事があるわけです。だから、前世因縁と来世因縁はそう言う五百阿羅漢が全て涅槃に行ってしまう、という事ですね。まあこれで、ここまで行ったから後は回向、はい、ご苦労様でした。後は楽しく。



ミャンマー・ヤンゴン・シュワダゴン 黄金の寺院 [カクサンダー仏、コーナガマ仏、カチャパ仏、ゴータマ仏の舎利が納められている]

水源禪師法話集 103

(2018 年 7 月 25 日 カナダ合宿最終日)

2019 年 3 月 16 日発行

編集兼発行 一乗禪の会